

令和元年度 北区地域包括支援センター運営協議会議事録

1 日時：令和元年8月1日（木） 午後2時～3時30分

2 場所：北区役所 7階大会議室

3 出席者：12人（欠席委員2名）、傍聴人なし

4 議題

(1) 平成30年度 あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）の運営状況について

(2) 介護予防ケアマネジメント対象者が要介護状態となった場合の取り扱いについて
～指定居宅介護支援事業所の選定における確認書について～

(3) 令和元年度 あんしんすこやかセンター事業計画について

(4) 令和2年度地域包括支援センター公募について

【以下非公開】

(5) 特定事業所へのサービス集中率等について

(6) 地域包括ケアの充実のための事業目標（平成30年度）の評価および地域活動計画（令和元年度）について

5 当日出された主な意見および事務局回答

<公開>

委員：緊急対応件数が平均より高い。適切に発見できているということなのか、予防的な対応ができていないために緊急対応に至ったからなのか。消費者被害が減ってきているのはいいことだが、本当に件数が減っているのか、被害にあっていることに気づいていないのか。数字だけで効果を判断するのは難しい。また、地域包括ケアを考える上で住民の安全を確保するために、特に金銭管理等の判断を伴う場合に、被害にあいやすい認知症の方を守っていかなければならない。手厚くみていかなければならない中でこのペースでよいのかどうかというのはある。

事務局：数字だけで評価は難しい。事業者からの緊急対応の通報が多いのは北区においては評価できる。

委員：ケアマネジャー研修が全市に比べて一圏域あたりが多いということだが、開催数が多いからよいということではない。研修の質を評価し、ケアマネジャーだけでなく多職種との連携ができる研修が増えていくとより良いと思う。

委員：あんしんすこやかセンターは民生委員・友愛グループ・ケアマネジャー等と会議を開催しているようだが、その活動が地域には見えてこない。民児協やふれあいのまちづくり協議会とも連携をとり、地域連絡会を開くなど、地域で行っていることを共有し、一緒に考えるところと気づく事があると思う。

事務局：地域に見える形での活動・連携は大切だと思う。

委員：フレイル予防はよく取り組まれているようだが、フレイル状態の方に対して、要介護にならないための対策はできているのか。定期的に運動をする・認知症予防・社会性を高める等をしていかなければいけないと思うので、フレイル改善のための対策を取っていく必要がある。

委員：施設の中には多様な専門職種がいる。理学療法士などは地域に出てフレイル予防等を行い、施設の中でも健康増進教室を行うなど、地域に根ざしたリハビリの拠点となっている。北区は施設が多く、他区より恵まれている特徴があるため、もっと資源を活かせると思う。

委員：あんしんすこやかセンターが行う地域づくり支援の取組みに、病院として一緒に参加した。地域で起こっている事を我が事のように考えて関心を持って参加している方もいる一方で、若い世代は参加につながりにくい。若い世代にも関心をもってもらえるように、病院としても考えていかなければならないと思う。フレイルについても自治会等へ声をかけ、一定、関心をもってもらっているが若い世代へもどう伝えていくのか、担い手の話しも含めて今後の課題であると思う。

委員：女性に比べると男性の社会参加が難しい現状があると思う。独居男性をいかにして誘い出すのか考えていかなければならないのではないかと。

事務局：あんしんすこやかセンターも独居の男性で閉じこもりの方に対してどのように支援していくかは日々検討しているところではある。

委員：あんしんすこやかセンターと社会福祉法人連絡協議会と新しいサービスの創出に向けて取り組んでいる。また成年後見制度の周知やつなぎもセンターと協力して行っていきたい。

議題（4）についての意見は特になし